

第2回高知市総合計画審議会 議事録

1 日 時 令和8年5月26日（火）18:00～20:00

2 会 場 総合あんしんセンター3階大会議室

3 出席者

委員 石塚 悟史（会長）、西内 裕晶（副会長）、古谷 純代、松本 明
中屋 優子、森田 美佐、宇都宮 千穂、渡部 淳、宮嶋 徳明
澤田 宗佑、新開 祐二
※ 大槻知史委員は都合により欠席

高知市 大宮 剛夫（政策企画部長）、山本 晋平（政策企画部副部長）、
岡 里香（政策企画部副部長）、村永 京介（政策企画課長）、
平峯 真理（政策企画課長補佐）、清遠 佳澄（政策企画課総合政策担当係長）
有城 慶祐（政策企画課総合政策担当係長）、谷村 将生（政策企画課主査）
田内 寛人（政策企画課主査）、竹内 彰彦（政策企画課主査）

4 議事経過

【石塚会長】

本日の会議について、「高知市における附属機関等の会議の公開に関する要綱」に基づき公開の上開催としてよろしいか。（異議なし）。

それでは早速議事の方に入る。次第の3、議事(1)「（仮称）高知市未来ビジョン」の構造案について、事務局からまず説明をお願いします。

【事務局】

資料1～3及び参考資料①～③に沿って説明。

【石塚会長】

ただ今の説明について、質問や確認事項などがあればお願いします。

【松本委員】

議論の前提を確認するため、人口減少を最重要課題として位置づけたことの意図について説明をお願いしたい。

【事務局】

最重要課題について、人口減少に限らず現行の総合計画では、例えば南海トラフ地震対策や地域共生社会の実現など、包括的なテーマを掲げて取り組んでいる。人口減少対策というテーマが広範な分野に影響を及ぼすことは実態として見えている。人口減少対策へのアプローチ方法について、「減少幅の縮減」と、人口減少は避けられないため、「減少する人口に対して

どのように適応していくか」という二つのアプローチがあると考えている。高知市では「適応」の部分について明確な位置づけがないという問題意識もあり、人口減少に歯止めをかけることと人口減少への適応策の両輪で進めていくということが重要であると考えている。この考えについても意見をいただきたいと思っている。最重要課題に人口減少対策というテーマを挙げた理由は、まず、部局横断的な取組について横串を刺す階層が必要と考えたこと、次に様々な重要課題がある中で、人口減少対策というテーマが最も横断的で全部局が関与している課題と捉え、この課題に対してどのように臨むか、あるいはどのような姿勢で臨んでいくかということを考える際に、「歯止めをかける」と「適応する」という二つのスタンスを掲げる場所として、この未来ビジョンの中に明記することが今後の取組を進める上でも必要なのではないかと考えたためである。

【澤田委員】

人口減少対策について、高知県が作成している計画との整合性や関係性についてはどのようなになっているか。

【事務局】

例えば高知県が平成 27 年度に策定した「高知県まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中で人口の将来展望について触れられているが、高知県内人口の約半分を有する高知市は、将来展望を考えるにあたって影響が大きく、高知県も高知市の人口動態などの状況を確認した上で計画を策定している。このように、重要な施策を進める上では、県市で連携して歩調を合わせ、相乗効果を図っていくという視点を持っており、毎年開催している県市連携会議などの取組を行っている。特に人口減少対策については、「高知県元気な未来創造戦略」を進める中で県市が連携し、県が創設した交付金を活用する際に、相乗効果を生むような市の取組を創出している。高知市がよほど大胆な方針転換をしない限り、基本的には高知県の施策と方向性は整合していくと考えており、具体的な内容については、総合計画とは別に策定している、「高知市まち・ひと・しごと創生総合戦略」と関連が深いと思うが、高知市として示す全体的な方向性についても高知県の計画から大きく逸れることはないと思っている。未来ビジョンの内容などについては適宜情報共有を継続し、もし留意することがあれば高知県と協議を行い、整理した上で策定を進めていく。

【澤田委員】

高知県の計画を踏まえ高知市の計画を作るという考え方や、今後高知市が作る計画に高知県の方がその内容を追随するような計画を打ち出すといった考え方もあると思う。せっかく計画を策定するのであれば後者の考え方も検討してはどうか。

【石塚会長】

おそらく高知県内でバックキャスティングの手法で総合計画を作成している市町村はなく、高知県の計画も高知県としての理想像から施策への落とし込みという手法では作成されてい

ない。今回、高知市がこの手法での作成に取り組む場合、後に高知県が計画を作成する際に、どのようにすり合わせていくか、また、高知市が作成した計画を高知県がどのように捉えるのかについて、確認は必要ではないかと考える。

【西内副会長】

理想の未来像を表現する視点として、「当たり前」はどういった状態であれば「当たり前」となるのか。「生活道路や市道は車が通って危険なので、歩行者は少し寄って歩きましょう。」という考えは「当たり前」であるが、安心・安全な生活環境の理想像と比較すると、到底容認されないことでもあり、交通工学的な観点で言うと、安全な環境を作らないといけないということになると思う。

【事務局】

都市建設部からも「もはや当たり前ということがすでに当たり前ではなく、限りある予算の中、創意工夫を重ねてやっと勝ち取れるものが「当たり前」である。」という意見が出ていた。インフラも経年劣化が進行し、現状が快適な交通空間と言えるかも疑問であり、現状を「当たり前」としてしまうとこれ以上伸びしろもない。「現状を維持するという意味での「当たり前」であったとしても、今後は努力の果てによりやく勝ち取れるものであり、「当たり前」という表現の仕方を見直した方が良いのではないか。」という意見も出ていた。この未来ビジョンの性質からすると、現状ではなく、確保されるべき快適なまちの水準を設定していくべきだと考える。捉え方が人によって違ってくる可能性がある言葉は選択に注意し、現状のスタンダードではない理想像に近い設定をしていきたいと思っている。

【以降、審議事項に係る発言】

【事務局】

本日、出席が叶わなかった大槻委員より事前にご意見をいただいております、代わりに紹介させていただく。まず、全体的な構成などについて、「目指す将来像」、「視点」、「最重要課題」、そして「行動計画」という構成順に違和感があるという意見があった。最重要課題について、記述内容自体は人口減少の対応を意識してまとめられた基本姿勢を示す内容であるものの、「最重要課題」という表現になっていること、また「視点」の後にそういった基本姿勢について触れられることが不自然に感じられる原因であると分析いただいている。一般的な計画の構成に照らし合わせるのであれば、まず「目指す将来像」があり、その次に「基本姿勢」、「基本姿勢」を受けて「その将来像を達成するための6つの視点」があり、その後「6つの視点を実現するための具体的行動計画」といった構成となるのではないかという意見もいただいている。また、構造案に追加する内容の提案として、「目指す将来像」について、例えば人口減少や災害リスクといった現状がある中で、それらを踏まえたビジョン設定をするのであれば、今の案ではそういった要素が不明確ではないか、また、庁内アンケート結果を踏まえると、多くの部署で共通している課題意識として、事務局では拾いきれていない三点が

導き出せるのではないかということで、具体的にご意見をいただいている。まず、部局間での連携において「壁」が存在し、その阻害要因として部局での情報共有が停滞しているということ。次に防災部署に加えて、各部署の平時の事業の中で災害時の対応にも備える必要があるにもかかわらず、事業内容への反映や防災、災害対応の事業との連携、接続が進んでいないということ。この辺りは大槻委員が前回の審議会でもお話ししていただいた問題意識、これと共通するものは分析から見て取れるといった話である。最後に市民、とりわけ高齢者、子ども、親子などの暮らしを支えて事前防災や災害時対応の基盤になるような地域のコミュニティや市民同士のつながりが希薄化しており、事業による支援の実効性が担保されにくくなっているという課題意識も分析結果から拾うことができるのではないかといった指摘である。次のページにこれらの整理を踏まえて市民向けのアンケートの参考に加えながら、大槻委員から修正案を作成いただいている。目指す将来像は「どっこい、元気がよ 人口が減っても幸せを紡ぎ続けるまち、高知市」であり、基本姿勢について、先ほどの三点について対応するような形で「部局間横断での情報共有と連携により、市民を多面的かつ効率的に支え、挑戦や活力を応援する」、そして「いつも」の暮らしを支える事業に、「もしも」の視点を重ね合わせる」、最後に「市民生活や災害対応の基盤となる、市民間の多層的なつながりと信頼を育てる」ということを提案いただいている。

【石塚会長】

大綱や施策に関する意見だがどう思われるか。

【事務局】

今回、「幸せ」というキーワードを基に目指す将来像などを設定しているが、大槻委員の指摘は他にも人口減少や南海トラフ地震に伴う災害リスクといった要素を含めるべきではないかという意見である。何を基に設定を行うかについては、市民の方々からも同じように様々な意見が出ると思う。また、これまでは幅広く意見を聞くことに注力していたが、今後は具体的なイメージを示しながら意見交換を行い、未来ビジョンの内容そのものに反映していきたい。改めて意見交換などを踏まえた未来ビジョンを確認いただき、議論を重ねていただきたいと思う。

【石塚会長】

今回、「幸せ」という視点を基に構造案を作成いただいているが、私も西内副会長と同様に、「当たり前」の状態が分からない。「まちが元気とは一体どういう姿を元気というのか」、「自分らしさとはどういうことを自分らしさと言うのか」、「心地良いというのはどういう姿なのか」といったことは、人によって捉え方が異なるため、目指す将来像を可視化して示すと、より将来像のイメージができ、意見も出やすくなると思う。目指す将来像が曖昧な言葉で表現されていると、混乱を招き市民にとっても分かりづらい計画になるため、将来像をどのように可視化するかが重要になる。また、市民自らが自分事として計画作成に関わったことが感じられるよう、アンケートやアイデアソンといった場を活用するべきである。

【宇都宮委員】

私も石塚会長と同様に、「当たり前」という言葉は曖昧であり、絵にすると市民に伝わりやすいのではないかと感じた。また、今回の総合計画は社会・経済情勢の変化に対応するために計画期間を短縮したと聞いているが、おそらく対応すべき社会・経済情勢の変化とは、「人口減少」であると思うが、人口減少に関する高知市の現状を単にデータで示すのではなく、もう少し掘り下げたデータを示すと良い。人口減少の影響として、地域経済の衰退や社会福祉の低下、公共施設マネジメントなどの問題が出てくるが、それは他市町村でも同様に言えることである。今回の未来ビジョンを高知市の独自性を出すものにするのであれば、そういった人口減少が引き起こす様々な問題や影響が、各部署の業務にも関連性がある問題とわかるようなデータを示す必要があると思う。そのようなデータを示すことができれば、人口減少が、「横断的取組」が必要な課題だということがわかり、具体的な行動に結びついていくと思う。

【澤田委員】

目指す将来像を示していただいているが、見方を変えると幸せの形を行政が押しつけているようにも見える。今回の未来ビジョン作成に当たっては、市民意見を反映しているということであるが、その策定プロセスが重要であると思う。市民が示す理想の将来像を基にビジョンを作成する必要がある、行政の押し付けになっていないか危惧していたが、プロセスを聞いて安心した。

【古谷委員】

理想の未来像を表現する視点について、言葉は非常に柔らかく心に入ってくるが、「高知市はどのようなことが起こっても未来へ進む、力を合わせて切り開いていく」といったことが感じられるよう、言葉に力強さがほしいと感じた。若者が進学などで高知を離れたとしても将来的には高知に帰ってきたいと思えるような言葉や、高知市のどの地域に住んでいても高知市の力強さを感じられるような強い発信力が重要であると思う。

【石塚会長】

これから様々なことに挑戦する必要がある中で、各人の挑戦を支えることができるような未来ビジョンになると良いと思った。

【中屋委員】

理想の未来像を表現する視点について、言葉が綺麗にまとまりすぎていると感じる。中山間に住んでいる立場からすると、施策の検討に当たっては視点を変える必要があると思う。

【森田委員】

高知に住み続けたいと思える要素を、より強くしていこうということが各視点に集約され

ていると感じた。また、例えば「安全、活力、共生、尊重、快適」といった要素を視点1から5に振り分け、「安全で快適な暮らしがあり、誰もの人権が尊重され共生でき、その中で活力が生み出されていく」といったように、各視点が輪のようにつながる形で示すこともできると思った。

【渡部委員】

構造案の5番目の視点において文化に関する内容などが位置付けられているが、他の視点と比較すると、やや寄せ集めの感じがする。「文化・移住・社会的孤立」といった要素を統一的に解釈できるのか、また、「心地よくつながる」といった言葉についても定義が不透明であり、全体的にもう少し精査を行うべきである。また、人が暮らしていく上では、それぞれが自身のまちを自覚し、誇りを持つことが重要だと考えており、そのためには積極的な言葉と姿勢を示す方が良く、そうすると施策とも結びつきやすくなると思う。また、最重要課題である人口減少について、人口減少が悪いことかどうかについても賛否両論があり、その点もきちんと議論した上で最重要課題を進めていく必要がある。

【石塚会長】

AIの進歩など、様々な技術的進歩を含め、生活基盤を維持していく上での高知市の適正人口の設定はどこなのかと思った。未来ビジョンにおける適正人口の設定については、おそらく意見が分かれると思う。

【宮島委員】

書きぶりをどのようにするかにもよるが、未来ビジョンの構成について、このままで良いと思う。目指す将来像について、自分なら「市民が幸せに生活するまち」を目指すと思うが、50年ほど前に読んだ本の中で「幸せとは、身体的な幸せ、経済的な幸せ、精神的な幸せである」と提唱した人がおり、それを参考に、一番目は「命を守るまち」、二番目は「暮らしを守るまち」、三番目は「心豊かに生きるまち」と三項目に分けて考えてみたが、おおよそこの施策の内容と紐付けができると思った。「命を守る」、「暮らしを守る」、「心豊かに生きる」程度の簡単な表現を用いると良いと思う。ただ、その三項目で施策を並べるだけでは、総花的な計画になることから、各施策とつながりがもてるよう、「未来に向かうまち」という部局横断的な取組の目標を設定した。今の案の六つの項目は市民にとってわかりづらく、覚えられないことから市民にとって分かりやすいコンパクトな計画という視点からは少し外れると思う。また、成果指標の設定について、現行の総合計画では数字で示しやすい成果目標が示されていたため、新たな総合計画では、数字で表せない施策の成果目標をどのように位置付けるかについても今回議論してはどうかとも思う。

【石塚会長】

確かにこの1から6の視点だと覚えづらく、分かりにくい。問いの投げかけ方を少し変え

てみると良いと思う。

【新開委員】

未来ビジョンの構造と構成について特段意見はないが、高知市の現状を記載する際には、市民目線で市民の納得感も踏まえることが大事になってくると感じた。バックキャストイングの手法を用いることに異論はないが、現状を踏まえ、達成に向けた施策を打ち出していく構成となるためそういったことも考慮しながら現状整理を行うことが重要だと思った。また、単純なプロフィールや統計情報だけでなく市政の課題点やこれを打破するための様々なアプローチを盛り込むとも書かれているが、どのような切り口で現状分析を行い、人口減少という課題を抽出するのか、炙り出すのか、そのあたりの構成の考え方についてお伺いしたい。

【事務局】

統計上の人口や面積といった現状ではなく、例えば特定の分野で新しく、特徴的に動きがある課題について、アプローチに必要な要素や解決に向けた力の結集方法などを表現し、「現状」と言いながらも「強み」にフィーチャーした内容を記載したいと考えている。課題ばかりの現状ではなく、豊かな自然や食など、高知市にある強みに加えて、知られざる魅力や気づかれていない強み、あるいは中心部にない高知市の多様な文化といった要素を市民からも集約し、高知の魅力について表現したいと考えている。人口減少問題については、高知市が課題に対して前向きに取り組んでいく上での後押しやつなぎとして設定することを考えている。

【新開委員】

実際に市民が困っていることなどの実状を踏まえ、課題を導いたという記載ができれば良いと思う。

【事務局】

参考資料で市民からいただいた意見を紹介しているが、働く場所がない、あるいは楽しいエンタメの要素が少ないなど、様々な世代の方から高知市の弱みについて意見をいただいている。現状を記載するに当たっては、より精度を上げて意見を集約していきたい。

【石塚会長】

未来ビジョンを見た時に、「夢と希望に溢れていて、こういったものであれば頑張りたい」と市民が思うことができるビジョンにしたい。そういった活力のある強いメッセージで、「このような社会になるとみんな良いよね、みんな頑張ろうよ、俺も頑張ってみる」と思うことができる表現になると良い。

【西内副会長】

理想の未来像を表現する視点1について、古谷委員がおっしゃっていた「力強さ」を踏ま

えると、「最先端のインフラで暮らせる」といった表現になると思った。高知県はよく「課題先進県」と言われるが、課題にチャレンジしてだけでなく、世界の最先端を示すという考えもあると思う。生活道路の空間再配分について、永国寺キャンパスから審議会会場まで歩道がつながっておらず、歩行空間は非常に脆弱であると改めて感じた。誰もが安心して歩くことができないといった課題に対して、例えば新しい概念や他県にないものを取り入れて道路を作るといった考えや、上下水道などの公共インフラの維持更新について、管理を辞めるといった選択肢もあり、そのように課題先進県として新たな考えを基に課題に向き合っていくといった方法もあると思う。また、各施策について、評価のスケール感をどのように設定するか検討が必要である。視点1の施策にある「コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり」について、この施策は非常に長期間の施策であり、おそらく30年スケールで取り組んでいるものである。実感することが難しい内容であり、仕方ないかもしれないが、10年ほど高知市都市計画審議会に参加している中では大きく変わった感じはしない。そういった施策もある中で、8年の計画期間でKPIを作って評価する際の評価レベルの設定をどうすべきかが疑問である。例えば8年間で抜本的に変えられるものについて、都市計画の観点から言うと、コンパクト・プラス・ネットワークのまちを考える際には、一旦まちを小さくし、孤立させない、それをネットワークでつなげるということが重要であるが、公共交通の要素も含まれており、都市建設部だけでは到底考えられないものである。コンパクト・プラス・ネットワークを形成する道路は、直轄国道もあれば県道もあり、もしかしたら高速道路もあるかもしれない。そういった中で、一自治体一担当課では解決できない問題こそがコンパクト・プラス・ネットワークそのものだと思っている。それに付随する要素がおそらく「安心して住み続けられる住環境」や「安心・安全な生活環境の確保」といった交通安全に関するキーワードであり、この30いくつかある施策それぞれのスケール感を考える必要があると思う。今あるサービスを漫然と維持するという姿勢から脱却するという点については賛成であり、それを踏まえてそれぞれの施策のスケール感をどのように記述すれば良いか、一緒に考えていきたい。

【松本委員】

高知市として人口減少対策などを行っていく際に、高知市の課題解決だけではなく、国全体、地球全体規模での課題解決に貢献することも視野に入れて取り組んでいるということを示すことが重要ではないか。高知市だけでなく、国などとも連携して様々な課題解決に取り組んでいくに当たって、高知市の取組がより広域な視点から見た場合にどのような位置づけになるかを意識することが重要であり、国全体あるいは地球全体に対して、課題先進自治体である高知市として、何らかのモデル性がある取組を進めていく姿勢を提示しても良いと思う。

また、未来世代に対する責任という観点として、現世代が未来世代への投資をどのように行っていくのか、どのように現世代の利益とのバランスを取るのかという観点を掲げると良いと思う。理想の将来像を掲げ、高知市としての役割を果たしながら、周囲と連携しつつ、未来世代への責任に対してどのように取り組んでいくかを考えることも必要だと思う。

人口減少問題については、そのまま放置せず量的にも担保していくという考えと、量的には下がったとしても最低限の幸せの質は維持していくという考えが示されているが、この二つは現状の課題に対応しようとする考え方である。これに加えて、よりポジティブな視点で取り組む姿勢も示すことができると良い。活力が減ることに対して、守る・適応するだけではなく、量的には減るからこそ、その活力をむしろ増やしていくといった文脈を横断的取組の理念にて表現できれば良いと思う。

また、総合計画そのものの特性と役割を変える必要があると思う。市民や全庁からのアンケートについて、これまでだと、これだけ膨大なデータはすぐにはまとまらないため、そこから見える課題等の整理に時間がかかっていたが、今回はかなり早く作業が進んでおり、そういった意見集約を迅速に進める仕組みを整えたこと自体が良いことである。今後A Iエージェントなどを活用し、今回行った作業をより迅速に行えるような状況になる可能性もあることから、庁内アンケートに意見を出せば迅速に反映されるような仕組みを作り、さらに、対外的にもアンケートで市民の意見を聞けばすぐ将来像に反映できるような方法を整えていくと良い。今回作成した未来ビジョンについても、当初想定した内容を前提として進めていくのではなく、市民から意見を反映しながら適宜アップデートしていくような仕組みを整えていくことが必要ではないかと思う。

目指す将来像に関するストーリーについて、サンプルも提示いただいているが、どのように設定したとしても、全ての将来像に正確に一致するようなストーリーを設定することはできないことから、今後アップデートしていくことを前提に、市民からも意見を受けながら、ストーリーを見直し、関連する施策に反映していくといった方法も考えられると良い。

また、アジャイル型のDXの推進とあるが、この計画の策定プロセスそのものがアジャイル型の仕組みを構築していく取り組みの一つという側面もある。今後はこの計画を実行し、施策を具体化する段階においても、今回作った計画アップデートのプロセスをA Iなども活用しながら仕組化し、先進性のある計画策定・運用モデルとして位置づけつつ、他の地域にも役立てていくということができれば画期的な形になると思った。

【石塚会長】

未来ビジョン策定の方向性で、社会経済情勢の変化に的確に対応できるように機動性・柔軟性を重視し計画期間を短縮するとあるが、策定に係る作業は非常に膨大である。機動性を求めると、情勢が変わった段階でどのように情報を集めてアップデートするかということを求められる。定期的に情報が入ってくる仕組みを整え、リアルタイムの情報から、来年度の施策に反映できるといったことができればすごく良いと思う。5年、10年に一度行っていた計画の見直しについて、情報収集や適宜アップデートするという仕組みを用いて市民サービスをより良いものにしていくということを示すことができれば良いと思う。

【松本委員】

情報集約整理の仕組み構築においては、現場目線からの情報を取り入れていくということも重要であり、そのような情報を拾うことができるように行政の人的資源を集中する必要がある。

ある。行政が把握している情報を効率的に集約する仕組みを整えつつ、現場に行かないと分からない情報を取り入れることにも注力しながら、計画を柔軟に変えていくことが重要だと思う。全てデジタルにシフトするのではなく、デジタルにシフトするからこそ、現場の情報といったアナログな情報が重要になる。

【宇都宮委員】

学生が地域のことを学ぶ授業の中で、地域の祭りが担い手不足によって消滅してしまう地域があるといった話をしており、学生もどうにもできないことに不安を抱えているが、そういった文化の継承に対する施策などがどのように反映されるのだろうと思った。市民意見整理表に記載された内容からもう一步踏み込んだ内容を反映できると施策が間違っただけのものにならないのではないかと思った。また、高知大学の南側に道路ができた結果、元々いたホテルが見られなくなった。朝倉は元々田や工夫のある水路がたくさんある一方で、住宅の開発に伴い農地が減り、水路も次々に埋め立てられて、歴史が消えつつある。「地域や農業の環境が変わる、住んでいる人が変わる、ホテルが見られなくなる、歴史が消えゆく、私たちのアイデンティティが喪失していく」といったように、様々な要素がつながってそういったことが起こっていく。この「人口減少」という言葉の中にはそういった問題も潜んでおり、施策において問題が解消されるようになると嬉しいと感じる。

【松本委員】

文化や自然に関する地域の具体的な状況をどのように反映していくかについては、施策レベルにおいて触れられる内容と具体的な指標設定等の中で触れられる内容があると思う。施策レベルになると、どうしても大きな文脈での記述となりがちなところがあり、詳細な状況について触れにくい。また指標についても、これまでは把握しやすい指標のみ触れていることも多く、細かな状況をカバーしきれない要因の一つとなっている。

今後は、シチズンサイエンスのような手法も取り入れつつ、今までデータ化や指標化が難しかった地域情報も把握し、成果指標の設定に反映されるような仕組みや、GISなどの情報システムと連動しながら、どのエリアでこういった情報があることが分かる仕組みなどが構築できれば良いと思う。

計画の中では、施策については少し広めに解釈できるような記述にして、具体的な指標等を設定していく中で広く市民などからの意見を取り入れることで細かな状況に対応していくといった方法もあると思う。

近年の情報技術等の発展状況を踏まえると、今までは労力的、時間的制約などから拾えなかったものや整理できていなかった地域データや市民意見を効率的に集めることができるようになるのではないかと期待もある。その際、データ整理等はAI等を活用して効率化できる部分が多いことから、地域状況を反映する現場での具体的な情報を収集していくことが行政の担うべき役割になっていくのではないかと。

【事務局】

宇都宮委員がおっしゃった、どこにも触れられない課題について、他の分野でもたくさん潜在していると思う。全て網羅的に対応するのは難しいかもしれないが、高知市が前に進んでいくという姿勢や強み、取組の中でも良いものを推し進めていくという姿勢は示していきたい。例えば中高生向けのキャリア教育など、若い頃から高知市に郷土愛を持っていただくような取組を始めるなど、複合的な分野を庁内で連携して進めているものもある。そういった良い取組を提示して、課題に対して立ち向かうことができるという期待感を持てるような要素を未来ビジョンの中に盛り込んでいきたい。施策に盛り込む内容や成果指標の設定について、宇都宮委員がおっしゃったような課題にも対応できる未来ビジョンにしていきたいと思っている。

【渡部委員】

アンケート結果について、ビジョンに直結する意見が集約されておらず、市民と一緒に未来ビジョンが作られたとは感じられないことから、集約方法について再検討すべきだと思う。また、他の計画との差別化や、市民が「自分たちが一緒に作り上げた未来ビジョン」であると実感できるよう、高知独特の事業や強みを積極的に取り入れて個性的な未来ビジョンにするべきである。

【事務局】

市民の皆さんとの意見交換は、職員が地域へ直接出向いて実施しているが、現時点では、率直に理想のまちの将来像を伺うなど、抽象的な質問内容を設定し実施している。今後は、将来像を可視化し、具体的な未来ビジョンの中身に関する意見交換を行いながら、未来ビジョンに反映していきたい。

【松本委員】

市民が参加したワークショップなどで把握された意向等については、守秘義務など情報の取り扱いには配慮が必要であるが、市民意向の施策反映という観点から考えて適切な範囲で庁内での共有等ができればよいと思う。

【森田委員】

時代の先を行く施策と、現実と向き合った「逃げない」施策の両方が必要だと感じた。また、ストーリーサンプルの例について、このような設定の家族構成は実際少なくなっていることから、ストーリーのバリエーションがあると良い。

【大宮部長】

現行の総合計画と異なり、今回の未来ビジョンは市民にとってわかりやすい冊子を目指しており、市民や関係機関と意見交換を行い、幅広く意見を聞いた上で作成を行っている。現時点で反映できていない意見もあるが、継承していくべき内容の精査も含め、高知らしさ、

力強さをアピールでき、理想の将来像に結び付けることができるビジョンになるよう整理していきたい。引き続きよろしくお願いします。

【事務局】

本日いただいた多くのご意見や、第1回審議会でいただいたご意見のうち反映できていない内容について、さらに時間をかけて精査していきたいため、第3回審議会の開催は8月中旬もしくは9月上旬に行いたい。日程については改めて調整させていただく。

【石塚会長】

本日の審議会での意見を踏まえた整理などをお願いします。各委員においては、引き続きご協力をお願いします。